

## 平成 28 年度業務実績評価に係る論点整理（案）

## 1 基本的な考え方

年度評価実施要領における年度評価の方針及び第 1 回公立大学部会等における各委員の発言内容を踏まえ、次のとおり整理する。

## (1) 評価について

平成 28 年度業務実績報告書の自己点検・評価を踏まえ、業務の実施状況を確認したところ、全 103 項目のうち A 評価（達成度 9 割以上）となった項目は 102 項目（99. 0%）となっており、全体としてはおおむね順調に進んでいるものと認められる。

個別の評価については下記のとおり。

## ① B 評価について

【A 評価→B 評価 No. 78】

業務実績報告書の記載内容、質疑及びヒアリングの過程で、年度計画に対応した取組を実施しているとしても、その効果に疑問がある場合は A 以上の評価としない（B 以下とする）。

| No. | 自己<br>評価 | 部会<br>検証 | 論点整理の内容   |
|-----|----------|----------|---|
| 78  | A        | B        | <p>職員のコンプライアンスへの意識向上を図るため、遵守すべきルールやモラル等について取りまとめた冊子をホームページに掲載し、研修等での周知を行っているが、平成 28 年度に実施した保健医療学部の平成 29 年度入試において、合否判定ミスが判明した。</p> <p>また、平成 28 年度に職員等に対して情報セキュリティ通知及びセキュリティ講習会を実施したが、平成 29 年 6 月に臨床医学部講座におけるパソコンのウィルス感染事案が発生した。</p> <p>いずれの事案も、他に及ぼす影響が重大であることを鑑みれば、意識向上の取組が不十分であったと考えられるため、B 評価が適当。</p> |

## ◆意見交換における委員発言（主なものを要約）

| 委員名   | 発言要旨   |
|-------|--|
| 谷山部会長 | 入試における合否判定ミス及びパソコンのウィルス感染事案を考えると、コンプライアンスの意識向上のための取組が不十分であったと考える。  |
| 古谷委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワークにつながっているすべての PC の管理がなされていることが重要であり、ウィルス対策を行っても、管理外（個人に管理を任せている）の PC がネットワークに接続された段階で、危険度は飛躍的に増す。</li> <li>対策ソフトの導入や有効期限の確認等を個人に一任している状況では、情報セキュリティ管理に限界があり、今後も同様の事故が発生する可能性が極めて高い。</li> </ul> |

② その他評価に係る意見

| 項目                    | 委員名   | 発言要旨及び考え方  |
|-----------------------|-------|--|
| 記載内容について              | 谷山部会長 | 報告書の記載内容が以前に比べ分かりやすくなっているが、今後は、計画から改善までの一連の流れが明確になるように更なる努力を期待する。  |
|                       | 鈴木委員  | 何に力を入れているのか（重点戦略）が見えるような報告書になることを期待したい。  |
| 地域医療を担う<br>人材育成について   | 谷山部会長 | 道内受験者確保のための様々な取組により、平成 29 年度医学部一般入試において、合格者の道内出身者比率が 7 割を超えたことは、将来の地域医療を担う人材育成につながることから高く評価できる。                  |
| 国家試験合格率に係る<br>目標値について | 庄司委員  | 中期計画では、医師の国家試験について、94%という目標値を定めているが、平成 28 年度は実績が 91.5%で未達成となっている。（今後は医師を含めすべての職種において目標値を上回る合格率となるよう取り組むことを期待する。） |

上記意見を踏まえ指摘事項については下記のとおりとする。

2 指摘事項について

「法人の業務運営状況を道民に対して分かりやすく示すことが重要であることから、年度計画については、目標達成の目安となる数値の設定に加え、計画から改善までの一連の流れ（P D C A サイクル）を明確にし、客観的に分かる評価となるよう検討を必要とする。」

《昨年度の指摘内容》

法人の業務運営状況を道民に対して分かりやすく示すことが重要であることから、年度計画については、各項目において目標達成の目安となる数値の設定、通常業務の中で実施する事項と、通常業務以外で目標として定める事項など、目標とする到達度が客観的に分かる設定となるよう更に検討を必要とする。